

飼育巣から取り出したクロオオアリの職アリのうち2匹には、腹部背面にラッカーをつけて識別出来るようにし、1-X-'62 に再びトゲアリのいる巣に帰してみた。そのうち1匹は、全くトゲアリに対し攻撃しなかつたが、これは3-X-'62 に死に、他の1匹は、なおもトゲアリに対して攻撃を続けるので、再び巣から取り出してしまった。

1962 年に入つて、トゲアリとクロオオアリの反吐が見られたのは、14-V-'62 が最初で、それ以前にもクロオオアリは活動し、餌場へ出て吸蜜していたが、クロオオアリの職アリが反吐して与えようとしても、トゲアリが拒否する場合が多かつた。5月中旬をすぎると、トゲアリもクロオオアリの給餌をよく受けるようになった。

群の成員数は、1961 年には職アリ7匹と、27-IX-'61 に他のクロオオアリの巣から入れた2匹の幼虫がいたが、この幼虫は育たずに、1962 年の冬に死んだ。1962 年にも、クロオオアリの幼虫や繭を少しづつ追加した。その数は、5-V-'62 幼虫5匹、28-VI-'62 幼虫1匹、6-VII-'62 幼虫1匹、11-VII-'62 まゆ4、12-VII-'62 まゆ2、計幼虫7、まゆ6、をトゲアリの巣へ入れた。

Table 1. Date of hatch and moult of a single larva and the change of its head width.

	Hatching	First moult	Second moult	Third moult	Spinning cocoon
Date	19-VII	21-VII	24-VII	26-VII	2-VIII
Head width	8/20 mm	9/20 mm	11/20 mm	13/20 mm	

## 産 卵

最初の産卵は、4-VI-'62 に始まり、この日は2個産卵された。8-VI-'62 には6個に増えた。この日に、今まで巣にかぶせていた厚紙の覆いを取り、光の透るうすい紙に替え、しかも巣の奥のわずか一部だけを覆つて巢内を明るくした。その後、卵の数は少しづつ増えて19-VI-'62 には、25個が数えられた。しかしその後卵は減り始めて、27-VI-'62 にはわずか6個となつた。この日には、クロオオアリの職アリが卵を食べるのを観察した。又、トゲアリの産卵も止つてしまつたようなので、再び巣に厚紙の覆いをして巢内を暗くしてみた。その後卵の数は再び増加し始め、1-VII-'62 には約20個、8-VII-'62 には約40個を数え得た。

卵は、乳白色長円型で、8個測定の結果では、長さ58~62/50 mm、幅27~29/50 mmであつた。

トゲアリの雌は、卵に対して全く無関心ではなく、卵塊に頭をつけて静止することが多く、卵塊をなめるようにしたり、卵をくわえることもあり、巣室の蓋をあけたりするような危険の場合には、卵塊をくわえて走り出すこともあつた。

## 孵 化

卵は、発生が始まると、まず一端が透明となり、ついで他端も透明となる。孵化が近づく、全体半透明の白色で、中央部に淡褐色の不透明な部分が現われる。これは、幼虫の内臓